

宏池会の会長就任の挨拶

昭和四十六年四月十七日行われた宏池会総会で、前尾会長に代って第三代会長に就任した際の挨拶。同志の信頼と結束強化を要請する

私は、只今、総会によって、前尾先生の後を承け、会長にこの御要請をいただきました。まことに身に余る光栄でありますと同時に、乏しい自らを省みて、兢兢たる思いがいたします。

しかし、幸に、私には、前尾、益谷両先輩をはじめ、吉田、池田、前尾の三代を通して、終始苦楽を共にしてきた多くの同志に恵まれております。これらの方々の御力添えを唯一の頼みとして、全力を傾けて、同志の期待に応えることが、私の任務であると考え、この際、不敏を省みず、謹んでこの要請をお受けたいと存じます。同志各位の全幅の御協力を切にお願い申し上げます。

前尾先生は、池田先生逝去後、今日まで、その高邁なる人格と深い教養の重みをもって、毅然たる態度で政局に対処され、宏池会の誇りと名譽を立派に守り抜かれました。

また、公私にわたってわれわれを暖く指導し、行き届いた面倒を見て頂きました。ここに、同志各位と共に、前尾先生に対し、満腔の敬意と謝意を表したいと存じます。ついては、私は、この際、前尾先生を宏池会の名譽会長に推薦し、大所高所に立つて、未永く、われわれ後進を指導して頂くようお願いしたいと存じます。同志各位の御賛同をお願いいたします。

今回の会長交代は、宏池会にとつては、その結成以来の最大の危機を孕んだものであります。この重大な局面に処して、福永座長、小坂委員長はじめ、幹部の各位は、まことに周到な英知と情理を傾け尽されて、同志の奔走と問題の処理に心胆をくだかれたのであります。それによって、幸にこの局面を打開することができた許りでなく、難局を転じて、結束強化の契機にまで高めることに成功したのであります。私はここに、同志各位と共に、その御勞苦に対し深厚なる謝意を表したいと存じます。

会務の運営については、申すまでもなく、同志各位と隔意のない意思の疎通を通して変に処し、事に臨み、誤りなきを期してまいることは、私の当然の責任であると考えております。幸に、われわれの追求すべき主体的な路線は、昨日の前尾声明に既に明らかに示されております。これに

付加すべきものもなければ、この中から留保すべきところもありません。要は信を腹中においた相互信頼の強化と、活発な同志間のコミュニケーションの展開を通じて、この示された道標に向って一路邁進することのみであります。

まことに不敏な私ではありますが、当面の参議院選挙に全力投球することを手始めとして、自民党の中核的な勢力としての宏池会の躍進に全力を傾ける所存であります。同志各位の層一層の御叱正と御支援をお願いして、私の御挨拶といたします。